



壱岐島ララバイ

今年の海の日、僕は長崎の壱岐島へ初めて上陸した。博多ヨットクラブが主催する「壱岐-福岡ヨットレース」に参加するのが目的なのだ。壱岐島の郷ノ浦港沖をスタートして、福岡・小戸沖のゴールを目指す、約34マイルのワンデイレース。昨年までは、福岡スタート→壱岐ゴールだったそうだが、今年は趣向を変えてコースが逆になったらしい。例年、参加艇は福岡のヨットがほとんどなので、せっかく壱岐まで行くのであれば、レース前日にみんなで島へ乗り込んで、前夜祭をやって盛り上がりたくないか、というのがコース変更の理由だと知った。なんて粋な試みだろう。遠征前からワクワクして、まるでオトナの遠足である。

レース前日。僕のチームは壱岐まで回航するのに、福岡のマリノアを朝6時に出港。ブームカバーを張って日陰をつくり、いい歳した野郎ばかりで他愛もない話題に打ち興ずる。西浦崎を抜けて玄海灘に入れば、あとはオートパイロットで壱岐島まで一直線。3時間ほど走ると、崖が切り立ったような小さな孤島を通過した。烏帽子島という名前だそう、ここが壱岐までの距離の真ん中になるんだよ、と仲間の一人が教えてくれた。その島の名を聞いて、僕はサザンの古いナンバーを口ずさむ。ところで、チャコは曲名になっているからいいけれど、ミーコとピーナッツの立場はどのようなよ。そんなくだらないことを考えた。パウに当たった波の隙間から、トビウオがビュンと水面を飛んでいく。

左舷の遠くに唐津や呼子の海岸を眺めつつ進むと、正面に壱岐島が近づいてきた。思っていたより大きな島なのね。福岡を出港して、ちょうど6時間で郷ノ浦港に到着。すでに先着したチームがデッキ上で酒盛りを始めておりまし

た。なんだかいい雰囲気。我々もフネを泊めて上陸すると、ランチに焼肉屋さんへ直行だ。なにせ、それが目当てで朝早く出発したのだから。壱岐島は昔から全国有数の仔牛産地として有名で、現在も年間5,000頭もの仔牛が生まれるらしい。島内一貫飼育にこだわっており、島の牛たちは海のミネラル分をたっぷり吸い込んで、おいしく育つのだそうだ。そんな壱岐牛を少しレア気味に焼いて、口いっぱい頬張る。それをハイボールで流し込む。うひょー、むっちゃうまい。福岡に残してきた家族への罪悪感のみじんもなし。壱岐のグルメをぜんぶ堪能してやるんじゃない。

夕方の前夜祭パーティーでは、地元の皆さんが和太鼓などで歓迎してくれた。こういうの、旅人はうれしいのだ。そして、オープニングの乾杯は麦焼酎。壱岐島は麦焼酎の発祥地で、壱岐市には壱岐焼酎による乾杯を推進する条例があるんだって。調べてみたら本当でした。僕、こんなユーモアが大好き。パーティー後はチームの二次会で寿司屋さんに突入。そこで出てきた壱岐特産のウニ料理が、こりままたまらん。つつい麦焼酎をオカワリなのだ。

やっぱり、地元グルメを思いっきり楽しむことが、遠征レースの一番の醍醐味なのだ僕は思う。その思いが強すぎるあまり、二番目の醍醐味であるヨットレースのことを書くの忘れてました。ありゃりゃ。このページの文字数制限を超えるので、遠征報告はこれでおしまい。

井田光司(いだ・こうじ)

1972年生まれ。島津製作所ヨット部所属。1996、1999、2002年スナイプ級全日本チャンピオン。現在は、子持ちセーラーとしていかにセーリングを続けていくかを模索する日々。